

スピーキングトレーニング (英語科)

担当 丸田 仁

【このレポートの内容】

ICT 機器 (Chromebook) を活用したスピーキングトレーニング

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
<p>B1 個に応じる学習</p> <p>Google ドキュメントの音声入力機能を使って、スピーキングトレーニングに取り組む</p> <p>自分の発音が正確であるかを自分で確認できる。正しく発音をすることができないところを自分で把握できる。</p> <p>重点的に反復練習をすることができる。</p> <p>手軽な操作で取り組むことができる。</p>	<p>授業の中でこのような活動は困難であった。</p> <p>これまで speaking の活動は、どうしても 1 to 1 の指導に偏りがちであった。生徒の中には、i-pad の speaking 専用アプリを個人で契約するなどして練習に励んでいるものもいた。</p> <p>これまでは、つまずくであろうポイントを一齐に説明し、一人ずつ抽出する個別指導が主であった。</p>

【活動の様子】



【ICT 機器を活用する良さ】

- 生徒自ら自分の発音が正しいかどうかを客観的に確認できる。
- 生徒のつまずきが把握でき重点的に指導できる。
- OAI に認識されるかという明確な目標ができることもあり、生徒たちの活動に取り組む姿勢がより前向きになった。
- OAI に認識されようと自然と大きな声で話す生徒の様子がうかがえる。

【改善すべき点と原因または改善の見通し】

- ・どうしても認識されにくい生徒に対する指導
- ⇒苦手とする生徒に対しては、個別指導などの支援が必要と考える。できた喜びを感じさせる工夫が必要と考える。

【今後の見通し】

この機能について、実践と検証を重ね、ディベートの記録やレポート作成などに応用する取組の在り方を考える。英語教育の可能性を感じるツールである。